

A・MUSEUM

vol.74
[2013.3.10]



ミュージアムパーク
茨城県自然博物館



再建された六角堂

(提供：茨城大学五浦美術文化研究所)

けんぼく いづらかいがん 茨城県北ジオパークと五浦海岸に再建された六角堂

国内で25か所認定されている「日本ジオパーク」のなかで、本県には、2011年9月に認定された「茨城県北ジオパーク」があります。

そのみどころの一つ五浦海岸は2011年3月の東日本大震災により大きな被害を受けました。なかでも日本美術院の創設者、岡倉天心ゆかりの五浦六角堂が津波によって流失したことは、大きなニュースとなりました。六角堂はその約1年後の2012年4月に再建されていますが、再建にあたっては流失以前の六角堂にはなかった出窓がつくられるなど、天心の時代に忠実に、本格的な復元が実施されました。

天心の生誕150年にあたる2013年は、映画「天心」の公開が予定されるなど、改めてこの地が注目されています。皆さんもぜひ茨城県北ジオパークと「文化と自然の交差点」五浦海岸に足を運び、その自然に触れてみてください。

(企画課 富永敬之)



2011年3月、流失した六角堂跡に残された土台

第57回
企画展

こけティッシュ 苔ワールド! -ミクロの森に魅せられて-

THE WORLD OF BRYOPHYTES: FASCINATING MICRO FOREST

とても身近にあるけれど、小さくて見過ごされがちな『コケ』。皆さんはコケに対してどのようなイメージを持っているのでしょうか。京都の苔庭を思い浮かべる方もいらっしゃるでしょうし、「あのジメジメしたところに生えているベタツとした緑の塊でしょ?」と、あまり良いイメージをおもちでない方もいらっしゃるでしょう。

本企画展のタイトル「こけティッシュ 苔ワールド!」は、そのようなイメージをがらりと変えたいという思いから名付けました。コケティッシュ (coquettish) は、フランス語で「魅力的な」という意味をもち、主に女性の美しさや魅力を表現するの

に使われます。コケは、道端のただの緑の塊にみえるかもしれませんが、世界に約18,000種、日本だけでも約1,700種もあり、ルーペや顕微鏡で拡大した姿は美しく多様です。また、ダニやクマムシなどの小さな生きものにとって、コケは大切な住みかとなっています。レンズの先には、魅惑的な世界が広がっています。

本企画展では、50倍に拡大した模型や100点以上の実物標本、室内苔庭、顕微鏡写真などを展示し、コケの世界に皆様を御案内します。コケがもつ奥深さや多様性、美しさを感じていただけたら幸いです。

(資料課 鵜沢美穂子)



50倍の拡大模型がお出迎え (写真はイメージです)



世界最大のコケ ドウソニア・ロンギフォリア

展示構成

- コケワールドへようこそ
- コケの住みか
- コケの不思議な一生
- コケの進化
- コケの森の生きものたち
- 暮らしの中のコケ



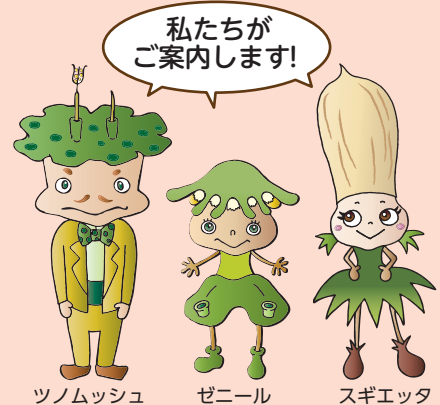
苔玉

(提供: 細村武義)



トゲクマムシのなかま

(撮影: 獨協医科大学 阿部 渉)



ツノムッシュ

ゼニール

スギエッタ

会 期 **2013年3月16日(土)~2013年6月16日(日)**

3月16日は午後1時からの公開となります。

開館時間 9:30~17:00 (入館は16:30まで)

休 館 日 毎週月曜日

※4月29日(月)は開館し、振替休館はありません。

5月6日(月)は開館し、翌日が休館となります。

●和楽器コンサート「苔と音楽の調べ」

日 時: 3月20日(水・祝) ①11:00~ ②13:00~

場 所: 博物館内

演 奏: 中島雅裕(箏), 樋口景山(尺八)

●記念講座「こけにできないコケのちから-撮影秘話を交えて-」

日 時: 4月29日(月・祝) 13:30~15:00

場 所: 博物館内

講 師: 伊沢 正名氏 (元自然写真家、糞土師)

対 象: 小学4年生以上 定員: 30名 (事前申込み 抽選)

記念イベント

●記念シンポジウム「コケに魅せられて」

日 時: 5月3日(金・祝) 13:30~16:00

場 所: 博物館内

講 師: 樋口 正信氏 (国立科学博物館 陸上植物研究グループ長)

伊村 智氏 (国立極地研究所 教授)

長谷部光泰氏 (基礎生物学研究所 教授)

藤井 久子氏 (フリー編集・ライター)

対 象: 小学生以上 定員: 280名 (事前申込み 先着)

あなたも博物館ボランティアに登録してみませんか 博物館ボランティア 4

現在、博物館ボランティアは約100名の方が登録しています。ボランティアは1994年の開館当時から、当館とともに歩んできたパートナーで、これまでに271名の方が登録し、活動してきました（2013年1月現在）。その多くは坂東市、常総市、守谷市など近隣の市町村の方ですが、なかには群馬県、千葉県、埼玉県、東京都、神奈川県など他都県からの登録者もたくさんいます。

ボランティアの募集は随時行っていますが、登録までの基本的な流れは、以下のとおりです。

申込み→ボランティア養成講座（2日間）→館側との面談→仮登録→実務研修（24時間以上）→友の会入会→正式登録

ボランティア養成講座では、当館の特色やボランティアについての心構え、接遇について学んだり、施設や実際のボランティア活動のようすを見学します。仮登録の後、実務研修では実際にボランティア活動を体験し、さまざまな行事やイベントにも参加していきます。

登録後のボランティア活動は、大きく分けると次の5つになります。

①サンデーサイエンス、とびだせ！子ども自然教室、

ふれあい野外ガイドなど、イベント参加者を対象にした教育普及活動に関すること

②調査・研究に関すること

③収蔵資料の整理に関すること

④お客様サービスに関すること（ゴールデンウィークなど来館者の多い日における迷子シール配付等）

⑤野外の維持管理に関すること

これらの活動に加えて、現在全部で13チーム（研修、化石クリーニング、イベント、DP/展示解説、里山、野鳥、植物、きのこ、昆虫、図書、友の会、ネイチャーゲーム、地学）を編成し、それぞれが自分たちで計画を立てて活動しています。いくつかのチームに掛け持ちで参加されている方も多く、当館のボランティア活動の特色となっています。

ボランティアの申込み方法は、当館ホームページ内の博物館ボランティア申込書をダウンロードし、必要事項を記入して、当館まで郵送又はFAXするだけです。18歳以上の方であればどなたでも申し込むことができます。

皆さんも、当館でボランティアになってみませんか。新しい自分の発見につながるかもしれませんよ。

（教育課 小泉直孝）



年に2回開催されるボランティア養成講座の様子



化石クリーニングチームの活動 青いジャンパーが当館ボランティア

祝 展示開設10周年

館内、DPコーナーの一隅に展示されている「ちょっと寄り道ふれあいコーナー 身近な草木」が展示開始10周年を迎えました。博物館ボランティアDPチームの4人の方が丹精込めて草花の管理を行っております。

ここに、10周年を迎えたこと心からお祝いし、厚く御礼を申し上げます。

小さなエリアではありますが、いつも、私たちの暮らしの中の、身近

な四季おりおりの草花を、創意工夫をこらしながら展示しています。ともすれば無機質な館内を生きる草花で飾り、来館者がほっと一息つける癒しの空間ともなっています。

春・秋の七草や野外施設の植物を観察し、冬芽や種子の展示等も行っており、日頃みなれた身近な草木でも新たな発見があることでしょう。

生きた草花であるため、乾燥した館内での水やり等、日々の管理には大変御苦労が多いことと思います。

コラム by director SUGAYA

これからも、心の温まる素敵なコーナーになりますことを期待致しております。



イラスト：上脇田直子（ミュージアムコンパニオン）

“首の短い首長竜” 研究の魅力

研究ノート1

皆さんは茨城県内に恐竜が生きていた中生代の地層があることを御存じでしょうか。ひたちなか市の平磯海岸では、中生代の最後の時代である白亜紀の地層がみられます。この時代、その場所は海の底であったため残念ながら恐竜の化石は出ていませんが、多数のアンモナイト化石、翼竜の化石や、モササウルスという海生爬虫類のなかまの化石がみついています。これらの貴重な化石を産する平磯海岸は、県指定天然記念物にもなっています。

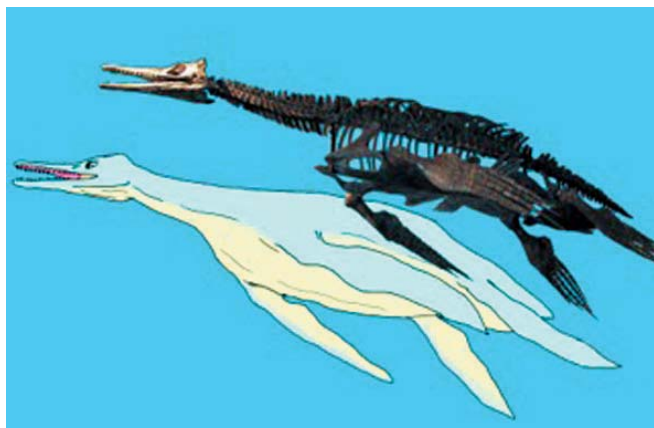
かつて中生代の海で生きていた爬虫類に、首長竜という生物がいます。日本国内では北海道から鹿児島県まで産出例があり、福島県からはほぼ完全な骨格が発掘されたことで知られます。そして茨城県にも白亜紀の海の地層があることから、県内でも発見される可能性のある生物です。首長竜の化石の腹部からはアンモナイトやコウモリダコの体の一部が見つかることがあり、首長竜はこれらの生物を食べる海の捕食者だったとわかっています。

じつは首長竜には“首の長い首長竜”と“首の短い首長竜”が存在しました。現在この2つのタイプの生態の違いはまだ研究途上にあります。そもそも首長竜

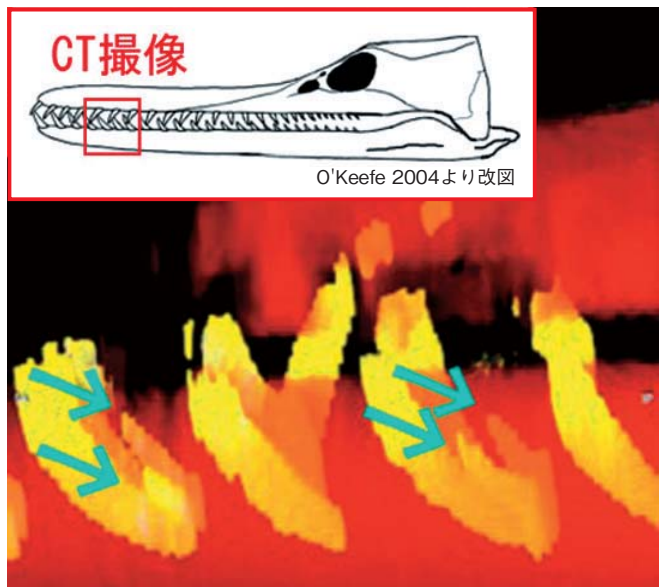
には謎が多く、なぜ首が長く進化したのか、なぜ首が短いものもいるのか、よくわかっていないのです。

私はそのような首長竜の謎を明らかにするため、歯の生え方・生え変わり方を研究しています。下の画像は首の短い首長竜の下あごの化石をCTスキャンした画像です。いままで首長竜では新しい歯が古い歯の舌側に形成されると考えられていましたが、首の短い首長竜においては新しい歯が古い歯の後側で形成されることがわかりました。これはあごの幅を狭めて水の抵抗を減らす適応だと解釈できます。さらに顎骨内部で歯根がカーブして前傾しており、獲物を追いかけて咬みつく方向の負荷が強くなっています。これらのことから、“首の短い首長竜”は水中で獲物を追いかける活発な捕食スタイルだったことが示唆されます。私はこのような研究により、海の捕食者としての首長竜の生態の謎を明らかにしていきたいと考えています。

(教育課 加藤太一)



首の短い首長竜の一種 (生体復元+復元骨格)



顎骨および歯のCT画像 (青矢印：新しい歯)

ミツマタ

皆さんは、ミツマタという植物を御存じですか。

ミツマタは、ジンチョウゲ科の落葉低木です。中国原産で、樹高は1～2mです。枝が3つに分岐する特徴をもつことから、その名前が付けられました。

樹皮の繊維が丈夫で、日本では主に和紙の原料として栽培されています。また、ミツマタを原料とした和紙は良質で、虫害を受けにくいので、高級和紙として昔から重宝され、現

小さな発見—ミュージアムコンパニオン—

代では紙幣用紙としても利用されています。

花の咲く時期は3～4月で、多数の小花が球状に集まった花序になります。まるでタンポポの綿毛のような、かわいらしい形をしています。花の色は黄色といわれていますが、よく観察してみると、咲き始めが黄色く、徐々に白色へと変化します。

今が花の見頃です。機会があれば、ぜひ御覧になってみてください。(ミュージアムコンパニオン 大野めぐ実)



ミツマタの花序

研究報告「博物館を評価するー8年目を迎えた進化基本計画ー」 研究ノート2

「博物館を評価する」というと難しいイメージがあるかもしれませんが。しかし、ふだん皆さんが博物館を訪れたときに「おもしろかった」とか「またいつてみたい」などさまざまな感想をおもちになっていると思います。これも博物館に対する評価の一つです。

博物館を運営するわたしたちにとって、これらの評価はとても大切です。来館者に楽しんでもらっているのか、期待に応えることができたのか、さらには社会に役立っているのかなどは、博物館の存在にかかわる重要な問題だからです。

博物館の評価と言っても、その見方はさまざまです。来館者数は大きな指標の一つと言えるでしょう。しかし、来館者数だけでは評価できない大切な機能を博物館はもっています。例えば、当館は展示室の裏側に4つの収蔵庫をもち、約30万点の各種標本を保管しています。本県唯一の県立自然博物館として、県内全般の自然に関する調査を行い、その結果を動物や植物、岩石・化石等の標本として保管していくという役割を担っているのです。このように博物館のさまざまな活動をきちんと把握して評価することが大切になってきます。

2008年には、博物館法が改正され博物館は自ら運営の状況について評価を行うこと、その結果を活かして運営の改善を図ること、運営の状況を公開するよう努めることが示されました。

評価をするためには、目標を明らかにしておくことが不可欠です。目標達成のための具体的な手立てを実践し、その達成状況について評価するのです。

当館では、開館から10周年を経過した平成17年3月に「茨城県自然博物館進化基本計画」を策定し、その後10年間の長期的な目標を明らかにしました。

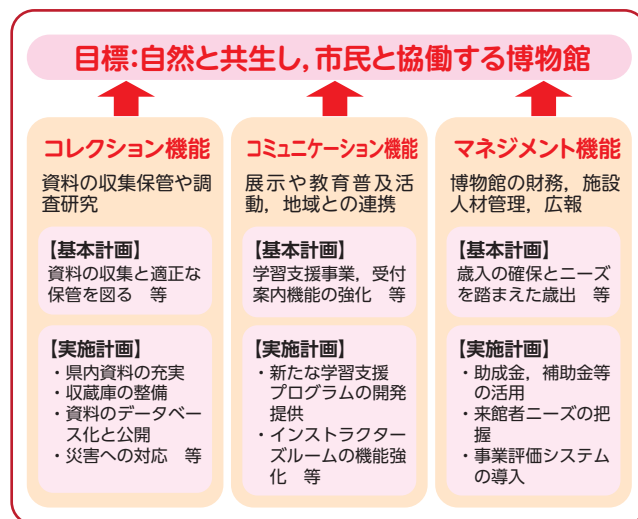
そこでは「自然と共生し、市民と協働する博物館で

あること」を目標と定め、コレクション機能、コミュニケーション機能、マネジメント機能の3つの側面から、その目標に迫るための12の基本計画とより具体的な38の実施計画を示しています。

計画の策定から8年が経過し、2015年には開館20周年を迎えます。新たな中長期計画の策定を見据える時期に入ってきました。そのためにも、現行の「進化基本計画」の達成状況を評価し、次の計画に反映していくことが重要になってきます。現在、その評価作業を博物館全職員で取り組んでいるところです。

これらの結果については、県民の皆様にも、この10年間でどのように博物館が進化してきたのかを示したいと考えています。そして博物館に対する御意見御要望をいただきながら、次の10年の目標を定め、県民の皆様から喜ばれる博物館へとさらなる進化を目指していきたいと思っております。

なお、進化基本計画は当館ホームページで公開しています。(教育課 栗栖宣博)



進化基本計画の概要

スズキ

スズキは、釣りや食用など私たちと関わりの深い魚です。出世魚としても有名で、関東近辺では、セイゴ、フッコ、スズキと大きさによってよび名が変わります。

そんなスズキは、海に生息するイメージが強いと思いますが、実際には海水と淡水が混ざり合う汽水域にも現れます。普段スズキは海で生活していますが、餌である小魚やエビのなかまを求めて汽水域へと侵入します。なかには、純淡水域にまで

遡上することもあるようです。

当館では、淡水に適応したスズキの姿をみていただきたく下流水槽(淡水)で展示しています。

お客様からは、「なぜ、スズキが淡水の水槽に…」という驚きの声もよく聞きます。まだ、フッコサイズ(50cm)のため、小さいですが、成長するにつれて貫禄のある泳ぎをみせてくれるはず。馴染み深い魚ですが、水槽をのぞいてみ

おさかな通信

ると新たな発見があるかもしれません。ぜひ、一度御覧ください。

(水系担当 大森教弘)



スズキ

寄贈された朝日トンネルの岩石・鉱物標本

収蔵品紹介

昨年11月12日、土浦市小野と石岡市柴内を結ぶ新しい道路として、新たに全長1,784mの「朝日トンネル」が開通しました。このトンネルは筑波山塊を南北に貫いて整備された道路で、交通の利便性の向上とともに、今後の周辺地域の振興が期待されています。

朝日トンネルの掘削工事では、地下の岩石が大量に掘り出されました。鉱物収集家の江坂 力氏（取手市在住）は、2010年から2011年にかけてこの工事現場を30回以上にわたり訪れ、掘削された岩石や鉱物を丹念に観察し、くわしく記録にまとめました。その結果、筑波山塊の地下をつくっている岩石とともに、緑柱石や鉄電気石、マンガンを含むフッ素燐灰石などさまざまな鉱物が採集され、江坂氏により当館に寄贈されました。



掘削工事中のトンネル内部 (2010.12.15)

朝日トンネル付近には、マグマが地下でゆっくり冷え固まってできた花崗岩類（斑状黒雲母花崗岩と両雲母花崗岩）およびこのマグマの熱によって変成作用を受けてできた変成岩（ホルンフェルス）が分布しています。また、これらの岩石の大きな割れ目にマグマが入り込んでできたペグマタイト脈や、小さな割れ目に熱水が流れてできた白い方解石脈などがみられます。なかでもペグマタイトに含まれているフッ素燐灰石の小さな結晶は、紫外線を照射すると淡黄色に輝いて印象的です。これらの標本からは、地下でマグマが固まるようすの一端を知ることができます。

江坂氏から寄贈された朝日トンネルの岩石・鉱物標本は、3月末まで当館の「トピックスコーナー」で展示紹介されています。（資料課 小池 渉）



鉄電気石 (左上) と緑柱石 (右)

肉眼彗星になるか？パンスターズ彗星接近中

季節の話題

パンスターズ彗星が3月5日に地球の近くを通り過ぎ、10日に太陽に最も近づきます。この彗星は、2011年6月6日に発見されましたが、その当時から大彗星になると予想され注目されてきました。

パンスターズ彗星は、3月10日前後に最も明るくなり肉眼でもみえるのではと期待されていましたが、最新の観測情報では、3等級という予想もでており、日没後の時間帯に肉眼で彗星をとらえるのは難しい可能性があります。3月11日以降は、日没後30分から1時間の時間帯が観察しやすく、西の空で長さ10度以上の尾がみられる可能性があります。その後は、北の空に移動し、地平線から約15度の高さで4月上旬までみえ続けます。

この彗星は、過去に太陽に接近したことがない非周期彗星で、核に大量の揮発成分を持っています。このため、白いダストテイルと青いイオンテイルが伸びると予想されています。近年、長い尾が観測された彗星は、2007年1月のマックノート彗星と2011年12月のラブジョイ彗星でしたが、いずれも北半球では条件

が悪く長大な尾は南半球での観測にとどまりました。北半球で観測された彗星では、1996年の百武彗星1997年のヘール・ボップ彗星がよく知られています。

彗星は、明るさ、尾の長さや形の予想が大変難しい天体ですが、直前に公表される詳しい情報をもとに、カメラと双眼鏡を準備して観察をしてみませんか。あなたも歴史的？彗星の目撃者になれるかもしれません。

（資料課 細谷正夫）



1997年に出現したヘール・ボップ彗星

（撮影：岡村典夫）

トピックス

○「ボタニカルアートを描いてみよう」を開催しました

2013年2月3日、特別展示「日本に残った植物 日本で生まれた植物—アートでみる日本の固有植物—」の開催を記念し、講座「ボタニカルアートを描いてみよう」を実施しました。ボタニカルアート(=植物画)とは、植物を正確に精密に描いた絵のことです。今回の特別展示では、日本植物画倶楽部会員によって描かれた213点もの植物画が展示されましたが、それを実際に描いてみようという講座でした。講座では、参加者がそれぞれに自分の描きたい植物を持参して、日本植物画倶楽部からお招きした館野京子先生、本田尚子先生、三浦ひろ子先生、高橋和人先生の御指導のもと、皆さん真剣に作画に取り組みました。講座の最後では、先生方から参加者全員の作品の講評をしていただきました。一日という短い時間の中でしたが、どれもが力作で、参加者どうし感嘆の声が上がっていました。参加された者の皆さんにとっては、とても貴重な体験となったようです。(企画課 内方陽子)



日本植物画倶楽部の先生方に丁寧に教えていただきました

○博物館ボランティアの新しい試み～炭焼き窯見学コース～

皆さんは当館の野外に炭焼き窯があるのを御存じですか。この炭焼き窯では、当館ボランティア里山チーム竹炭班の皆さんが、野外の竹林整備で切った竹を炭焼きにしています。竹炭には脱臭や水の浄化などさまざまな用途があります。これまでも当館の無料入館日には来館者にボランティアが作った竹炭を配布して大変喜ばれてきました。そこで、実際に竹炭を作っている炭窯のようすやできあがった竹炭の用途などを詳しく紹介しようということになり、2012年11月から当館炭焼き窯の見学コースがスタートしました。

この見学コースでは、竹炭の有効な利用法のほか、竹炭作りを通して人と自然、生活との関わりについても楽しく紹介しています。できあがった竹炭に触れたり、ボランティアが理科の実験のように竹炭の効能を説明してくれますので、大人から小さなお子さんまで楽しむことができます。場所は野外炭焼き窯、原則として毎週火曜日と木曜日の午後1時から2時30分に実

施しています。

野外を散策がてら、野外炭焼き窯周辺にお立ち寄り際にはぜひ炭窯見学コースに参加して当館ボランティアと楽しい時間を過ごしてみたいかがでしょうか。(教育課 小泉直孝)



炭焼き窯見学コースのようす。写真左が当館ボランティア

○坂東市立南中学校2年生が博物館で美化活動

2012年12月7日、ボランティア活動の一環として坂東市立南中学校2年生の皆さん78名が博物館の野外施設で美化活動に取り組みました。12月初旬は、野外施設は落ち葉でいっぱいになります。花木広場や昆虫の森周辺は、クヌギやコナラなどの落葉樹がたくさんあり、花木広場のテーブルが並んでいる周辺は歩いていると落ち葉で靴がみえなくなるほどでした。

作業時間は1時間程でしたが、78人の力が合わさって落ち葉でいっぱいだった野外施設がアツという間にきれいになりました。集めた落ち葉はビニール袋何十袋にもなり、準備していた堆肥用の落ち葉入れの柵もいっぱいになりました。これだけの落ち葉の量に、集めた中学生の皆さんもさぞびっくりしたことと思います。おかげで来館者も気持ちよく野外を散策できるようになりました。

坂東市立南中学校2年生の皆さん、本当にありがとうございました。そして、これからも近隣の学校や地域の皆さんに愛される美しい博物館で来館者をお迎えしたいと思っています。(教育課 小泉直孝)



野外花木広場周辺で美化活動に取り組む坂東南中2年生の皆さん

ミニ移動博物館 in 茨城空港



茨城空港でのミニ移動博物館の様子



人気のあった昆虫標本

当館では、収蔵資料を大型ショッピングモールや地域のイベントなどで展示し、館の紹介や企画展等の開催をお知らせすることなどを目的として「ミニ移動博物館」を実施しています。

今回、1月8日から1月14日にかけて、茨城空港1階のステンドグラス前イベントスペースでミニ移動博物館を実施しました。

今回の内容は、恐竜類の化石をはじめ、昆虫標本やタヌキの剥製、春の七草の標本などの展示、また2月2日よりはじめた特別展示「日本に残った植物日本で生まれた植物」のPRでした。

開催中は空港利用者や空港を見学に来た地元の方など、多くの方が来場しました。なかには北海道から定期的に本県に来ていて、今度はぜひ博物館にも行ってみたい、という家族連れもいらっしゃいました。展示の中では特に、迫力のアクロカントサル頭骨化石

(レプリカ)と、色とりどりの昆虫標本が人気でした。最終日はあいにくの大雪に見舞われ、午後の国内便も欠航、展示も早めの打ち切りを余儀なくされましたが、それでも、今回は空港のある茨城県央地域のみならず、県外へ向けての良いPR機会となりました。

ミニ移動博物館は年に県内外20か所程度で開催しています。お楽しみ抽選会や落葉のしおりづくりなどの楽しいイベントを実施することもありますので、皆さんも近くでミニ移動博物館が開催される際は、ぜひ足を運んでみてください。(企画課 富永敬之)

編集後記

第57回企画展「こけティッシュ 苔ワールド! -ミクロの森に魅せられて-」において、企画展開催までのさまざまな業務に関わってきました。ポスター・チラシの作成やその広報など、皆さんに館へ来ていただくための仕事は、別の側面から博物館の仕事を見ることのできる貴重な経験となりました。今後他館の展覧会などみるときにも、単に展示を観覧するだけでなく、そこに至るまでの経過が推測できるので、ひねくれた見方をしてみたいと思います。(j.t.)

【交通案内】



【車ご利用の場合】

- 常磐自動車道谷和原ICから20分
- 【鉄道・バスご利用の場合】
- つくばエクスプレス、関東鉄道常総線 守谷駅下車～関東鉄道バス「岩井行き」乗車～「自然博物館入口」下車、徒歩5分
- 東武野田線愛宕駅下車～茨城急行バス「岩井車庫行き」乗車～「自然博物館入口」下車、徒歩10分
- ※事前に発車時刻等をご確認ください。



【入館料】

区分	本館・野外施設		野外施設のみ	年間パスポート
	企画展開催時	通常時		
一般	720円 (580円)	520円 (420円)	200円 (100円)	1,500円
高校・大学生	440円 (300円)	320円 (200円)	100円 (50円)	1,000円
小・中学生	140円 (70円)	100円 (50円)	50円 (30円)	300円

(注):()内は団体料金(20名以上)
未就学児・満70歳以上の方・障害者手帳をお持ちの方は入館無料です。
次の日は入館料が無料です。

- 5月4日(みどりの日)
- 6月5日(環境の日)
- 11月13日(茨城県民の日)
- 3月20日(春分の日)
- 高校生以下の児童・生徒は毎週土曜日
(ただし、春・夏・冬休み期間中を除きます。)

【休館日】

- 毎週月曜日
- ※ゴールデンウィーク中の4月29日(月)～5月6日(月)は開館し、5月7日(火)が休館となります。
- ※6月24日(月)～6月29日(土)は館内整理のため休館となります。



自然博物館ニュース A・MUSEUM(ア・ミュージアム)

A・MUSEUM (AMUSEMENT+MUSEUM)

企画・編集:ミュージアムパーク茨城県自然博物館企画課 / 発行2013年3月10日
〒306-0622 茨城県坂東市大崎700番地 TEL0297-38-2000 FAX0297-38-1999
URL <http://www.nat.pref.ibaraki.jp/>
E-mail webmaster@nat.pref.ibaraki.jp
メールマガジンも配信中。登録はホームページから

ミュージアムパーク茨城県自然博物館は、誰もが親しめ、誰もが楽しめるア・ミュージアム(アミューズメント+ミュージアム)をめざしています。